

グローバル COE 講演会報告書

大学院理学研究科 竹腰 清乃理

研究集会名 : グローバル COE 講演会
講演者 : Dr. Marek Pruski (Ames Laboratory and Department of Chemistry, Iowa State University)
演題 : New Strategies for Improving Sensitivity and Resolution in Solid-State NMR; Applications to Catalytic Nanoscale Materials, Biomolecules and Fossil Fuels
場所 : 京都大学理学研究科 6 号館 571 会議室
日時 : 2011 年 3 月 11 日 15 : 00-16 : 30
参加者 : 理学研究科化学専攻・学部生, 大学院学生, 博士研究員, 教員
他研究科・大学院生, 教員
参加者総数 : 約 20 名

内容 : ゼオライトなどの細孔の表面で起こる触媒機能の研究には XPS の様な表面分光法や粉末 X 線回折法やラマン分光法などが用いられているが, 近年では非晶質でも局所構造解析が可能な固体の高分解能 NMR 法が用いられるようになってきている。Pruski 博士はこれまでに様々な固体高分解能 NMR 手法をそのような不均一な触媒系の研究に応用してきた斯界の第一人者であり, 近年は高速マジック角回転(MAS)に基づく種々の新しい固体 NMR 手法の研究も行われている。今回は博士の最新の研究を「New Strategies for Improving Sensitivity and Resolution in Solid-State NMR; Applications to Catalytic Nanoscale Materials, Biomolecules and Fossil Fuels」というタイトルで講演をしていただいた。本化学専攻の学部生・大学院生を中心として, 他研究科(工学研究科, 産学連携本部)などから約 20 名程度参加があった。講演中から活発な質疑があり, さらに講演後も別室で議論を行うなど, 学生にとって有意義で充実した講演となり, 後の交流の良いきっかけになったと考えられる。

